

祝日には国旗を掲げよう

東郷村報

第182号

昭和41年11月18日

発行所

宮崎県東臼杵郡

東郷村役場

昭和四十一年度

東郷村総合文化祭開催要項

一、趣旨

本村文化の向上と産業の発展のため、毎年続けてきた文化祭も各種団体並びに一般村民の協力により、その内容も充実し、益々成果をあげている。本年度はさらに広く一般の参加を求め、よりよい文化行事を実施し、村民に発表と鑑賞の機会を与えるとともに、村民相互の親睦をはかり、一段と郷土の発展に努めるため総合文化祭を開催する。

二、主催

東郷村教育委員会

三、期日

昭和四十一年
十二月三日・四日

四、会場

東郷中学校

五、実施方法及び内容

総合文化祭は、部落公民館文化祭と中央文化祭に分けて実施する。

(1) 中央文化祭

展示は部落文化祭における優秀な展示品と中央文化祭の展示品を併せて行なう。
村勢郷土展・学芸品展・農産品展・林産品展・特産品展・畜産品展・衛生展・生花展・農協展・商工展・婦人室
実演及び相談
実演は、農機具と家庭用品の実施と展示
相談は、育児、家族計画、成人病の相談を開設する。

C 競技の部

小学ソフトボール・球算
競技・公民館バレーボール

九、農林産品等の出品目録

ル、一般バレーボール・青年中学ロードレース

(2) 部落公民館文化祭

中央文化祭に準じて行ない、部落の特性を充分とり入れる。
尚、家庭菜園の審査・水稲の坪刈・甘しょの坪刈等を実施すること。

六、行事日程

十二月二日正午
出品物の受付展示
十二月三日午前九時開演
小学生ソフトボール・畜産展・球算競技・公民館バレーボール
十二月四日
青年中学ロードレース
一般バレーボール・演芸会
展示物は正午閉演
午後一時表彰式

七、運営組織

総合文化祭を円滑に運営するため次の役員をおく。
会長 副会長 運営委員
会長は文化祭の代表者で村長とする。副会長は助役・教育長・収入役とする。
(2) 運営委員は広く関係機関団体より会長が委嘱する。
(3) 総合文化祭の事務局は教育委員会におく。
(4) その他役員、係は別表のとおりとする。

八、表彰

(1) 部落文化祭は個人表彰及び団体表彰とする。
(2) 中央文化祭は、公民館の総合表彰・団体表彰・個人出品物は参加賞、但し、審査のあるものは個人賞を授与する。

交通道德を守ろう

東郷村バレーボール大会開催要領

一、期日

昭和四十一年十二月三日

二、場所

東郷中学校

三、主催

東郷村教育委員会

四、参加資格

東郷村民であることを前提とし、公務員、学生、青年団員をのぞく。それ以外の者で各公民館長の推せんを受けた者。

五、チーム編成

各公民館単位に男女各一チームとする。
男子
二六才以上二九才まで
三名
三〇才代
三名
四〇才以上
三名
女子
二六才以上二九才まで
三名
三〇才代
四名
四〇才以上
二名
但し、女子の場合二五才以下の者で既婚の婦人

才以下の者で既婚の婦人

林産物

しいたけ(四〇〇g) 木炭(二俵)

特産物

ラムー(一kg) まゆ(二〇〇g) 茶(二〇〇g)

農産加工品

みそ(四〇〇g) しょうゆ(一〇、四l)

十、出品物についての注意

中央文化祭に出品するものは部落文化祭において三等までに入賞したものを出品し、さらに中央文化祭に審査する。中央文化祭に出品する場合は、包装を厳重にし、公民館単位にまとめ出品すること。

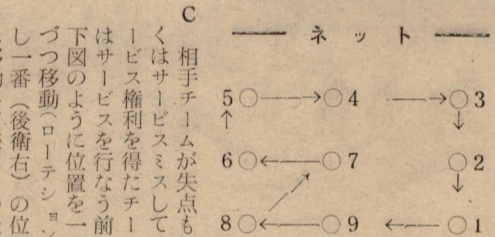
文芸



牧水は今も生きています

宮崎芸術創作家協会編「日向路の牧水」から

日向の海の声が聞こえる
いいや 日本列島の岸辺にうちよせる海のひびきがある
牧水の歌には
坪谷川のせせらぎの調べがある
いいや 日本国々の谷川のせせらぎの音がひびく
牧水の歌には
日向の国の山桜の花が咲いている
いいや 日本山々の山桜の花が散りしっている
牧水の歌には
日向人の心の鼓動が脈打っている
いいや 日本人の心の鼓動が脈打っているのだ
若い日
牧水は
藤村や啄木
白秋とともに
明治の青春をうたいあげた一人であった
生活苦に追われ 恋に悩み
なお ほとばしるように調べ高く
明治の青春を歌いあげた
いのちの寂しさを
孤独な心をつつめようと
旅に出
友を求めては酒に親しみ
またしみじみと いのちの寂しさを歌いあげた
まことに その人の言葉の通り
「友よ歌をうたはむ
わが生のあかしのために



のサーブを行なうものとする。
D 位置の移動の結果、後衛の位置にきた者は中衛より前方に出て攻撃することは出来ない。但し、レシーブのためパスで相手側にボールを返す場合はこの限りでない。
E 得点は一点でセットとし、どちらかが八点先取した場合コートチェンジする。両チームが一点ずつ得た場合は、その後二点勝ちこしたチームをそのセットの勝者とする。

美々津・権現崎

牧水歌碑によせて

黒木清次

幼い日。
はじめて海を見たのはどこであったか。
若い日。
「空想者の手紙」に描いた
孤独な 海への書斎はどこであったか。
旅の日。
たえず 思いの通う海はどこであったか。
眼路の遠くに重なる山々はどこであったか。
歌の日。
自然の生命そのままに生きた
帰・去・来のみわみ。
いま ひとり立つ。ここは美々津・権現崎。
ふるさとの大きな歌人は
いま ようやくここにめぐり帰ってきた。
海は 無量のかなしさと寂寥に青く
ひとり立つ。ふるさとの歌人の碑。
空と海の間
わが影を見るときふるさとの歌人は
いま ひとり立つ。
ここ、美々津権現崎にひとり立つ。

気軽にでかけられる親子会

Cさん

親子会が何年前から始まったのか知りませんが、この会は大変よい会だと思っております。学校のようす、子どものようすなど特に良くなっているように思います。部落の親子会がなかったら、子どもたちもダラダラになつていくような気が致します。この会が始まって子どもたちもまわりをよく守ってくれて本当に嬉しいことと思つてます。親子会は子どものため、親のためになつてくれる会だと思つて居ります。親子会は、

親子会についての提言

Bさん

親子会といつて、これは、集まりはしたものの、現在のそれは、わがたが親の子のことです。ただで終わつてしまつて、いふように思われてしまつて、ええと思われ方もあつて、まことに、一つの例をあげてみたいと思つて居ります。朝夕ごはんを食べている時に片手でひじをつけて食

文集「ごんげん」から

もつと話し合いを

「ごんげん」は、わがたが親の子のことです。ただで終わつてしまつて、いふように思われてしまつて、ええと思われ方もあつて、まことに、一つの例をあげてみたいと思つて居ります。朝夕ごはんを食べている時に片手でひじをつけて食

「追放しませう」
Dさん
親子会にはいりませんが、早く親子会に行きたい。学校に行きたいと思つて居りました。
さあはいったとたん「親子会」「参観」「子どもの世話」と忙しい毎日。家庭の仕事に忙しかつてもできなくなつてしまつた。
これではいけないと思つて居るのだが、なかなかできない。これから先、どうなるかと自分の無学に残念でならない。子どもと共に思ふのだが家庭の忙しさにとられてしまつて、親子会にも惜しい気がする位だ。
親子会といふは「十二時からよ」となつてくる、わたしたちのような人のよい者はふれてきた時間集まる、一時間半位、もつと時間を守れたらとわたしは思ふ。
時間どりに集まつて、先生の良なお話を、たくさん聞こうではありませんか。



